

さいがい いのち
災害から生命を守る学びテスト

JBK ジュニア防災検定®

第4回

しょ きゅう
初級

(40分)

問題用紙

「ジュニア防災検定」に取り組むことを通して、みなさんが、次の①～③の
ような行動が取れるようになることを目指しています。

- ① 日ごろから災害に備えた準備ができる。
- ② 災害時に生命を守るための行動ができる。
- ③ 未来を創るひとりとして防災・減災のために何ができるのかを考える
ことができる。

- 問題用紙は全部で10ページあります。
 - 名前を答案用紙の決められた欄に書きましょう。
 - 問題の答えは、答案用紙に書きましょう。
 - 質問があるとき、トイレに行きたくなったとき、気持ちが悪くなったとき
などは、手をあげて知らせましょう。
-

- ◆ 太一くんは小学校5年生、お姉さんのあやさんは中学1年生です。太一くんの家では家族で防災について話し合いをしています。太一くんたちが家族で行っている防災についての話し合いを通して、あなたもいっしょに防災について考えていきましょう。

あやさん：2011年3月に大きな地震があったでしょ。あの時は本当にびっくりしたわ。

太一くん：今年は2016年だから、もう5年も前だね。

お母さん：あの東日本大震災の地震直後には、宮城のおばあちゃんやおじさんと連絡が取れなくて心配だったわ。おばあちゃんの家はこわれてしまっていて、ひなん所で過ごしていたのよね。

お父さん：そうだな。まず家がこわれたり倒れたりしないことが、身を守ることに直結しているよ。大きな地震が起こった場合に倒れない建物の基準は国で定められているんだ。この家は、その基準にそってつくられているよ。

太一くん：あの大きな地震のとき、ぼくとお母さんはこのリビングにいたよね。そこに置いてある食器だながズズッと動いたんだ。こわかったなあ。

お母さん：こわかったわよね。あわてて食器だなからはなれて、テーブルにもぐりこんだのよね。

お父さん：建物だけでなく、家具も倒れないようにすることも大事だね。

あやさん：そういえば、学校でひなん行動のキーワードっていうのを教えてもらったわ。テーブルにもぐりこむっていうのは、「ものが落ちてこない、倒れてこない、移動してこない空間に身を寄せる」っていうことね。

ひなん行動のキーワード



ものが、

落ちてこない



倒れてこない



移動してこない

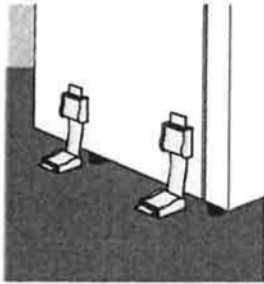
空間に
身を寄せる

お父さん： そうだな。当たり前のようにだけれども、それが生命を守ることに
つながる行動だということだ。それにガラスや鏡がわけて散らば
ると、けがをすることもあるよ。

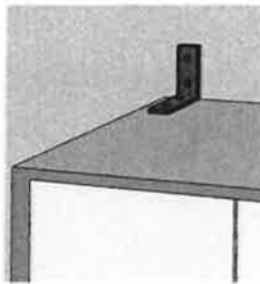
太一くん： 家の中でも、テーブルとか机がない場所ではどうすればいいの
かな。

問題1 家具や家電に利用する転倒防止の器具は、素材・重さ・形などのちがい
があるので、家具や家電の種類によって使い分けます。テレビの転倒防止
に利用する器具としてふさわしいものを次のア～ウから1つ選び、記号で
答えましょう。

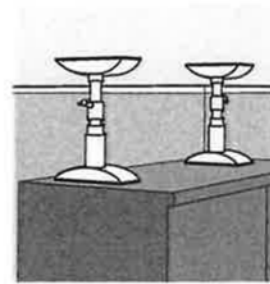
ア ストラップと
粘着テープ



イ L字金具



ウ ポール式器具

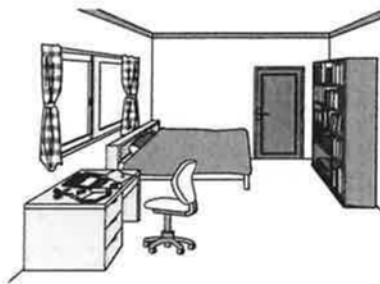


問題2 太一くんは、大きな地震が起こったとき、家の中でどう行動すべきか考えはじめました。あなたは、自分の生命を守るためにどのようなことに気をつけて行動しますか。次のⅠ～Ⅳの場所から一つ選んで、大きな地震が起こった場合、あなたが気をつけようと思ったことと、その理由を説明しましょう。

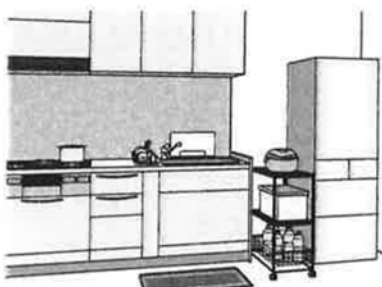
Ⅰ リビング



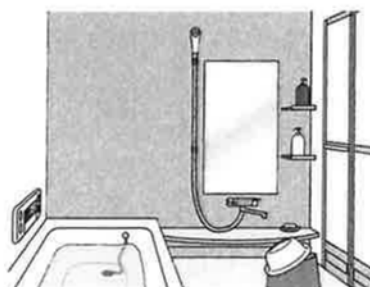
Ⅱ 自分の部屋



Ⅲ キッチン



Ⅳ お風呂場



太一くん：また、大きな地震が起こるのかな。

お父さん：首都直下地震※¹や南海トラフ地震※²が発生すると考えられているね。どんな地震が起こっても自分の身を守ることができるように、つねに備えておくことが大切なんだ。

太一くん：首都直下地震や南海トラフ地震ってなあに。

お父さん：首都直下地震は、首都圏の周辺で起こることが想定されている地震で、大きな被害が出ると考えられているんだよ。

お母さん：南海トラフ地震が起こったときには津波が心配ね。配られたハザードマップを見たら、この家も津波が到達する地域にふくまれていたわ。

お父さん：図書館で古い記録を見たことがある。この家よりも海側にある神社まで津波がきたけれど、神社よりも山側は無事だった、と書いてあったよ。この家は神社よりも山側だから、そのときには、被害に合わなかった地域ということになるね。

あやさん：東日本大震災のとき、予想より大きな津波がきたのよね。津波がどこまでくるかということは、その時にならないとわからないと思うわ。

※¹首都直下地震……南関東で30年以内に70%の確率で起きるとされるマグニチュード(M)7級の地震。

※²南海トラフ地震……日本列島の太平洋沖、「南海トラフ」沿いの広い震源域で連動して起こるとされているマグニチュード(M)9級の巨大地震。トラフとは海底の溝のこと。

問題3 太一くんが家にひとりしているときに、津波の心配がある大きな地震が起こったとします。地震がおさまった後に太一くんがとる行動としてもっともふさわしいものを、次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。

ア ひなんするかどうかの指示を聞くために、家族が帰ってくるのを家で待つ。

イ あらかじめ家族と決めた場所に向かって、ひとりですぐにひなんする。

ウ 過去の地震でも津波がこなかった場所に住んでいるので、ひなんしない。

お父さん：大きな災害が起ると、電気、ガス、水道のような毎日当たり前に使っているものが使えなくなることがあるよね。それに、電車が止まったり、道路が通行止めになったりすることもあるね。
あやさん：震災の後しばらくは、停電になる時間があったことを覚えているわ。
お母さん：電気が使えない生活はとても不便だったわ。
お父さん：水や電気やガス、電話やインターネットなど、人びとが日常生活を送るときに必要なものをライフラインっていうんだ。
あやさん：ライフラインって、英語だと命綱っていう意味があるわね。
お父さん：そうだね。もし、ライフラインのうち何か一つが止まってしまったとしたら、わが家での暮らしにどんな変化が起こるのかを考えてみようか。

問題4 次の絵は、「Save the Children」という子ども専門の国際組織のホームページから見る事ができる、東日本大震災を経験した人びとの声をもとに作成された「とっさのひとこと」というマンガです。

- (1) マングの最後の絵の〇にセリフを入れましょう。
- (2) このようなときあなたはどのようにしますか。どのような行動を取ったらよいと思うか書いてみましょう。



企画・制作：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、NPO法人プラス・アーツ
監修：吉川肇子(慶應義塾大学商学部教授)
イラスト・デザイン：北谷彩夏

太一くん：家には非常用持ち出し袋を用意してあるけど、他にはどんな用意をしているの。

お父さん：水と食料、そしてトイレトペーパーを備蓄しているよ。

お母さん：カセットコンロはこういう時にとっても役に立つので、ガスボンベも余分に置いているのよ。

あやさん：飲食料品には賞味期限があるので、定期的に確認しなきゃね。

問題5 私たちは飲み水以外にも生活に水を使っています。水道が止まると、水洗トイレや洗面所で水が使えなくなります。飲み水や生活用の水が不足した場合への備えや、水が使えなくなったときの対策としてふさわしくないものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

ア いつも風呂に水をためておく。

イ ウェットティッシュを買い置きしておく。

ウ 歯みがきをしないようにする。

エ 食器にラップをしいて使用する。

問題6 ライフラインが止まってしまった場合に備えて、水はもちろん食料や燃料、明かり、医療品、生活用品などを備蓄しておくことは、自らの命を守ることに繋がります。例にならって、あなたが家に備えておきたいものを1つ取り上げ、なぜそれを備えておきたいのかという理由とともに、答案用紙に記入しましょう。

例)

もの	トイレトペーパー
理由	トイレで利用するほかにも、食器の汚れをふいたり、手ふきや台ふきとして利用したりすることができるから。

- ◆ ^{たいち}太一くんの家で、^{さいがい}災害への^{そな}備えについて話し合ってから何日か経ったある日、
^{ちいき}地域の^{ぼうさいくんれん}防災訓練の案内が配られました。



日ごろの備えがあなたを救う

〇〇町

そうごうぼうさいくんれん
総合防災訓練

くんれんの日

11月6日

時間 9時30分ごろ

場所 ●●小学校校庭

問題7 防災訓練では、火事を見つけたときの行動について話をききました。そのときできることとしてふさわしくないものを、次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 火事を見つけたら、「火事だ」と大声でさけんでまわりに知らせる。
- イ 炎が人の背丈よりも小さいときは、まわりの人と協力して消火につとめる。
- ウ 炎が天井にとどくほどに上がっていても、みんなて協力して消火につとめる。

問題8 防災訓練では、実際に火事があったとき、火とともに危険なのがけむりだという話がありました。けむりには人の体に有害なものがふくまれていることが多く、すいこむとたいへん危険です。火災の現場からひなんするとき、けむりから身を守るために気をつけることとしてふさわしくないものを、次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア しせいをできるだけ低くして、けむりにまかれないようにする。
- イ ぬらしたタオルなどを口にあてて、けむりをすいこまないようにする。
- ウ けむりの通りをよくするために、ろう下の防火とびらは開けておく。

問題9 右の写真は、公共の建物や通路などにそなえられているAEDとよばれる救命器具です。太一くんは、防災訓練でAEDを使う訓練をしました。AEDを使う方法としてふさわしいものを、次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。



- ア 倒れている人がいたら、どんな場合でもすぐにAEDを使用する。
- イ 倒れている人がいたら、AEDの準備をして救急隊員の到着を待つ。救急隊員以外の人は使用しない。
- ウ 倒れている人がいたら、呼吸や心臓が動いているかどうかを確認し、すでに止まっている場合にはAEDを使用する。

◆ 防災訓練で太一くんは、町で洪水が起こりやすいところや、洪水の危険があるときに、ひなんするところについても学びました。そこで、休みの日に、太一くんはお父さんとお姉さんといっしょに町歩きをして、地図にある場所をたしかめてみることにしました。次の地図は、そのとき太一くんたちが持っていた町の洪水ハザードマップです(全体の一部)。ハザードマップとは、どのような地域にどのような被害が及ぶ可能性があるのかを示した災害予測地図のことです。



江戸川区より提供

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を複製したものである。

無断複製を禁ずる。(承認番号)20都市基交 第86号

問題10 太一くんは、防災訓練で、ひなんする所にもいくつかの種類があることを知りました。次の①～③の説明としてふさわしいものを、後のア～ウから一つずつ選び、それぞれ記号で答えましょう。

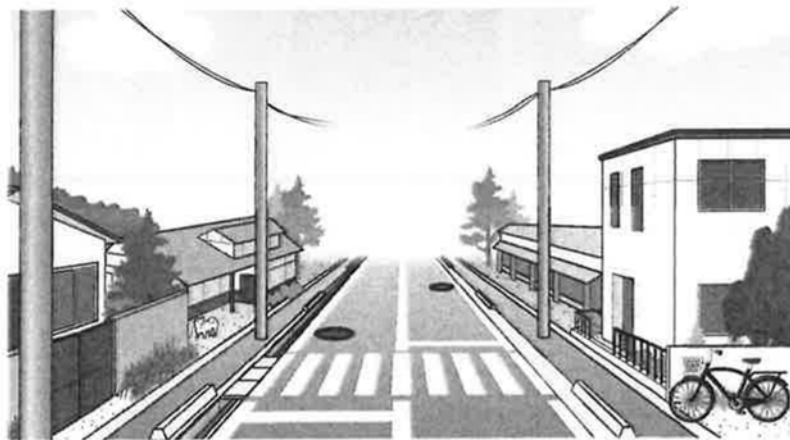
- ① 地震や火災などの災害が発生したときに、危険をさけ、身を守るためにかけこむ場所。
- ② 大規模な火災が発生したときに、火やけむりから逃げるための、広大なひなん場所。
- ③ 災害が発生したときに、自宅で生活ができない人が、何日間か生活できる場所。

ア 指定ひなん所 イ 一時ひなん場所 ウ 広域ひなん場所

問題11 あなたが洪水ハザードマップを持って町歩きをしたとしたら、とくにどのようなことに気をつけたらよいでしょうか。ふさわしくないものを、次のア～ウから一つ選び、記号で答えましょう。

- ア 自分の家の近所が洪水が起こりやすい場所かどうかだけを調べる。
- イ 自分の家の近所にある標識や目印になる建物などを調べる。
- ウ 自分の家から近くのひなん所までに安全に通れそうな道順を何通りか調べる。

問題12 実際に洪水が起こり、ひなんする必要がある場合にはどのようなことに気をつけてひなんすればよいでしょうか。次のイラストを参考にして、洪水が起こった時に、自分の身を守るために、どのようなことに気をつけてひなんすればよいのかを書いてみましょう。



さいがい いのち
災害から生命を守る学びテスト

JBK
ジュニア防災検定[®]

太一くんの家族が防災について話し合ったことや、地域の防災訓練に参加したことを通して、地震・津波・風水害などの自然災害が起こることへの備えや、実際に災害が起こった場合に自分の生命を守ることにつながる行動に目を向けていきました。問題に取り上げられている転倒防止器具の設置や、非常用持ち出し袋の用意以外にも、日ごろからできる生命を守る備えは数多くあるのです。「何ができるのだろう」「どうしてそのようにするのだろう」と思ったら、さらに調べたり考えたりしていきましょう。

問題1 家具や家電に利用する転倒防止の器具は、素材・重さ・形などのちがいによって使い分けが必要です。ポール式器具は、背の高いタンスや本棚などのような天井と家具のすき間が少なく、奥行きのある家具に使用すると効果があります。L字金具は、ねじを使って止めるので、壁と家具のどちらにもねじを使って止められる素材の場合に使用すると効果があります。テレビのように壁からはなれて置かれていて、ねじを利用できないものには、ストラップと粘着テープを用いたり、ベルト式器具を用いて固定したりできます。ストッパー式の器具など、このほかにも転倒防止の器具にはいくつかの種類があります。

問題2 家の中にいるときに大きな地震が起こった場合の行動をあらかじめ想定しておくことは、自分の生命を守ることにつながります。生命を守るための行動をとるときに、気をつけなければならないことがあります。“倒れてくる可能性がある大きな家具や、ガラスのような破損する可能性が高いものからはなれる。”“テーブルの下など、自分の身を守ることができる家具の下に入る。”“キャスター付きの椅子やたななどに押しつぶされないようにする。”“ドアや窓を開けて、出口を確保する。”といった、どの場所にも共通する注意点をとらえておくと、どこにいても、状況に応じて生命を守るための自らの行動をとることができそうです。

問題3 大きな地震が起こった後にとる行動は、そのときに自分がいる場所の状況によって変わってきます。津波の心配がある場所にいる場合には、すぐに高い所にひなんすることで身を守ることができます。また、津波は一度おしよせた後にふたたびおしよせることがあります。自分で大丈夫だと判断し、低い所にもどることは危険です。安全が確認できるまでは高い所にとどまるようにしましょう。また、地震が起こった後に土石流や地くずれなどが起きやすい場所もあります。自分が生活している地域にどのような災害が起こりやすいかを知って準備しておくことで、被害を小さくすることができそうです。

問題4 大きな災害が起こると、ライフライン(電気・ガス・水道・電話など)が利用できなくなる可能性があります。もし、水道管から水が出なくなったら私たちの生活はとても不便になります。水や食料などを非常時のために備蓄する、身の回りにある道具は非常時にどのように利用できるかを考えるなど、「とっさ」のときに備えてどのような行動ができるかを探っておきましょう。

問題5 水が使えなくなったときの対策にはいくつかあります。“いつも風呂に水をためておき、トイレを流す水などに利用する。”“ウェットティッシュを買い置きして、体をふくなど清潔を保てるようにする。”“食器にラップをして使用することで、食器を洗わなくても清潔を保てるようにする。”などは代表的なものです。一方、災害時の避難場所においても口の中を清潔に保つことは健康を守る上で大切なので、水を節約しながら歯みがきはするようにします。

問題6 ライフラインが止まると、いつもあたり前のように手に入れられるものの入手がむずかしくなる場合があります。たとえば、電気が止まると夜の暗闇の中で活動ができなくなります。ろうそくや懐中電灯を準備しておくことで、必要な場合に明かりを利用することができるようになります。また、ガスが止まると料理などができなくなります。携帯できるガスコンロを準備しておくことで、ガスが止まっても水を沸かしたり料理をしたりすることができるようになります。自分で準備できるものに限らず、家族や住んでいる地域ではどのような備えをしているのかを調べてみることもできそうです。

- 問題7 火事を見つけたときには、「火事だ」と叫んでまわりの人に知らせる。「119番に通報して消防車を呼ぶ。」などをして助けを求めようにしましょう。早期の通報が被害を少なくします。また、消火活動をするときには、炎が人の背丈よりも小さい場合は回りの人と協力して消火につとめますが、炎が天井にとどくほどに大きくなっている場合には自分の身が危険になりますから、消火活動はせず、ひな人をしましょう。
- 問題8 火災が発生したとき、けむりやそれにふくまれている有害なガスは、上の方に上がっていきます。ですから、なるべく低い姿勢をとって、けむりをすわないようにすることが生命を守ることに繋がります。ぬれたハンカチなどの布で口元をふさぐことも、けむりをすいこまないための対策となります。ものが燃えるためには酸素が必要ですが、火災が発生したときに防火とびらを閉じることで、空気(酸素)の流れを断ち、火災の勢いを弱める効果があります。
- 問題9 AEDは心臓がとつぜん正常に動かなくなったときに、電気ショックをあたえて正常なリズムにもどすために利用する道具です。AEDは、はじめての人でも使えるように設計されています。ボタンをおす、あるいはフタを開けるなどすると電源が入り、そのあとは音声で使い方が指示されます。倒れている人がいたら、まず呼吸や心臓が動いているかどうかを調べ、すでに止まっていることが確認された場合にはただちにAEDを使用しましょう。
- 問題10 災害時にひなんする所には、大きく分けて「ひなん場所」と「ひなん所」があります。「ひなん場所」というのは災害から身を守るために一時的にひなんする所で、「ひなん所」というのは災害の危険がなくなるまで、あるていどの期間にわたってひなんする所というちがひがあります。「指定ひなん所」は、災害が発生したときに、自宅で生活ができない人が、何日間か生活できる場所です。「一時ひなん場所」は地域の小さな公園などが指定されていることが多く、トイレや防災倉庫がない場所もあります。「広域ひなん場所」は、大規模な公園や大学などが指定されていることが多く、「一時ひなん場所」が危険になった場合には「広域ひなん場所」に集団でひなんすることが想定されています。
- 問題11 ハザードマップには、きよくたんな自然現象によって起こる災害予測が示されているとともに、ひなん経路やひなん場所などについての情報がかかれています。ハザードマップを持って町歩きをするときには、自分の家の近所に危険があるかどうかを確かめるだけにとどまらず、道路ぞいにあるひなん行動のための標識や、ひなんのときの目印になる建物を調べたり、自分の家からひなん所までの道順を歩いてみたりするなど、実際に災害が起こったときに自分はどのように行動できるのか、ということを考えながら確認していきましょう。
- 問題12 洪水が起こったときには、道路に水があふれたり、建物の中に水が入ってきたりします。道路のわきにある溝(側溝)の位置が分からなくなったり、あふれた水でマンホールが流されて道の途中で穴があいていたりすることもあります。ひなんするときには、溝や穴に落ちないように気をつけましょう。また、下水が逆流して、突然マンホールのふたが押し上げられたり、自転車などが流されたりする場合もあります。水の力によって流されてきたものにあたってけがをしたり転んだりしないように気をつけましょう。水があふれてからひなんすると、危険が多くなります。お年寄りや子ども、病気の人と一緒に行動する場合には早めのひなんをすることも大切です。

JBK
ジュニア防災検定[®]
第4回

初級 とう あん
答案用紙

得点

学校(団体)名		
名	フリガナ	男・女
前		

問題1	ア
-----	---

問題2	記号	理由
	I	解答例 たなが倒れてくるかもしれないので、テーブルの下にもぐる。

問題3	イ
-----	---

問題4	(1)	使えるのは、冷ぞう庫にあるペットボトルの水だけだ。
	(2)	解答例 水を得られる場所をインターネットなどでさがす。

問題5	ウ
-----	---

問題6	もの理由	解答例 卓上コンロ ガスが家庭にこなくなってしまうときに、ありあわせの食材で調理することができるから。
-----	------	--

問題7	ウ	問題8	ウ	問題9	ウ	問題10	① イ	② ウ	③ ア	問題11	ア
-----	---	-----	---	-----	---	------	--------	--------	--------	------	---

問題12	水につかった道路を使ってひなんするとき、石段につまずいたり、側溝に落ちないように気をつける。
------	--